

オープン市場短信 (2015年12月)

2015.12.7

◆ 11月のCP市場動向

11月のCP（短期社債）の月末残高は、15兆5186億円と2か月連続して前年同月比を下回る結果だった。発行残高の多い業種（石油・鉄鋼・卸売等）の発行減が影響したと思われる。月末近辺では、配当金や賞与資金手当て等での資金需要の高まりにより、多くの企業が発行したため、前月比においては+7042億円の増加であった（一般事法：+7339億円増加、その他金融：+727億円増加、金融機関：+95億円増加）。尚、ABC Pは▲1119億円の減少となった。

発行レートの動きについては、最上位格付け銘柄は0.049%台～0.07%台前半、a-1格の一般事業法人で0.049%台～0.10%近辺の出合いだった。月初から後半にかけて発行が膨らまかったため、投資家やディーラーがレートを切り下げて購入に動いていた。月末近辺になると発行が増加するも、優良銘柄中心にレート低下地合いが続いた。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄(a-1+格)0.058%割れ～0.073%。一般事業法人(a-1格)0.070%～0.088%。その他金融(a-1格)0.063%割れ～0.115%割れ。

【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	11月末残高	10月末残高	増 減
一般事法	41,906	34,567	7,339
その他金融	62,312	61,585	727
金融機関	37,204	37,109	95
政府系金融	100	200	-100
銀行等	13,126	13,150	-24
証券	23,978	23,759	219
ABC P	13,764	14,883	-1,119
計	155,186	148,144	7,042

(注:買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

11月のCPLレートレンジ

(単位：%)

格 付	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0650% ~ 0.0710%	0.0490% ~ 0.0700%	0.0680% ~ —
a-1 (一般事法)	0.0490% ~ 0.1000%	0.0600% ~ 0.0910%	0.0700% ~ 0.0880%
a-1+(リース銘柄)	0.0610% ~ 0.0798%	— ~ —	0.0579% ~ 0.0730%
a-1 (リース銘柄)	0.0780% ~ 0.1070%	0.0930% ~ 0.1200%	0.0629% ~ 0.1248%
a-2	0.0970% ~ ケ0.30%	0.0970% ~ ケ0.30%	0.0990% ~ ケ0.30%

《CPオペ》

CP買入オペのオファー額は、5日・16日に夫々3500億円、25日に4500億円と、前月（各4000億円）に比べ減少した。オペレートは、発行が少なかったことや応札可能銘柄が限られたことも影響し、按分・平均落札レート共に低下する動きとなった。

日銀CP等買入れオペ実績

(単位：億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
11月5日	11月10日	3,500	6,081	3,496	0.065%	0.071%	3.7%
11月16日	11月19日	3,500	6,051	3,500	0.051%	0.066%	5.0%
11月25日	11月30日	4,500	6,371	4,493	0.038%	0.060%	12.8%

【月末オペ残高：2兆2360億円】

《ABCP》

ABCPの月末残は、前月比▲1119億円減少し1兆3764億円であった。前年同月比でも、▲1985億円の減少と過去最低水準の発行残高となった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、11月末時点における発行登録企業数は日通キャピタル1社が登録し、合計512社となった。通算の発行企業数は、コスモエネルギーHD・中国農業銀行の2社が新規発行を行ったことから、合計556社となった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、レポレートが0.03%台～0.08%近辺のワイドレンジで出会っていたことに対し、CPレートは月中0.06%近辺から0.08%台で前月と、ほぼ変わらずに推移した。

◆ 12月のCP市場動向

12月のCP償還額は約3兆3800億円で、前年同月の償還額（約4兆2300億円）に比べ下回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABC P）。

今月の発行動向は、一般事法の賞与資金手当て等の要因から活況と予想する。四半期末決算対応で、月中償還のショートターム物発行が中心となるため、月末残高は15兆円前後に止まると思われる。

発行レートについては、発行量の多い銘柄やショートターム物では若干の上昇地合いが予想されるが、投資家の運用ニーズが強い1M物以上のターム物の発行案件に関しては、横這いからやや低下地合いの出合いと思われる。

最上位銘柄は、0.03%台半ば～0.07%前後での出合いを予想する。一般銘柄は0.05%台半ば～0.08%台で、発行量の多い銘柄は0.06%台後半～0.08%前後の出合いを予想する。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）は、0.06%台後半～0.11%台を予想する。

《CPオペ》

今月のCPオペのオファーは、4日・15日で5000億円、25日で5500億円と増額を予定している。（先月は3500億円×2回、4500億円×1回だった。）

また、CPオペのレート予想として、4日のオペは先月末の大量発行で若干上昇し、15日・25日のオペは年越え発行案件の減少化とオファー額増額の需給要因で、横這いから若干の低下と思料。但し、何れもオペ応札可能な銘柄如何でレートは振れる可能性がある。

《CP現先市場》

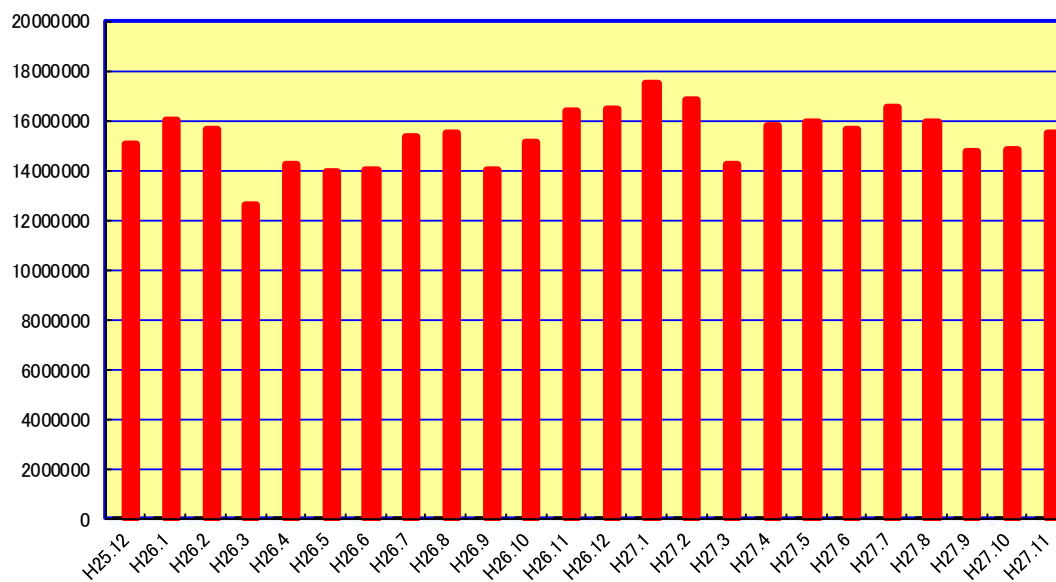
S/N物のレポレートは、月後半までは0.03%前後～0.06%前後の出合い、下旬以降は上昇地合いを予想する。年末越え（末初）は、大幅な低下（0%以下）が予想される。インターバンクレートは、0.075%～0.079%での出合いを予想し、年末越えはレポ同様低下を予想する。CP現先レートは、月中0.06%台～0.08%近辺の出合い。月末越えは、やや低下地合いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高（25年12月～27年11月）

発行登録企業：512社（発行実績あり556社）

（過去2年間の残高を表示）



11 月末発行残高ベスト 20

11 月末発行残高上位 20 社

(単位: 百万円)

	発行企業名	11 月末残高	10 月末残高
1	三菱UFJリース	810,400	788,400
2	三井住友ファイナンス&リース	797,200	823,700
3	SMBC日興証券	714,300	692,800
4	三菱UFJモルガンスタンレー証券	669,500	656,600
5	東京センチュリーリース	624,300	626,500
6	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
7	みずほ証券	436,300	374,300
8	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	434,110	453,280
9	JXホールディングス	400,000	395,000
10	大和証券	379,450	424,110
11	三菱商事	377,000	378,000
12	三井住友信託銀行	374,000	330,400
13	芙蓉総合リース	357,200	353,200
14	興銀リース	331,000	330,600
15	JA三井リース	329,000	332,000
16	日本証券金融	293,000	344,000
17	JFEホールディングス	279,000	255,000
18	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	261,000	300,090
19	三菱重工業	248,000	123,000
20	ジャックス	240,000	240,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長 (登金) 第 243 号

大阪本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会